



## 新年のご挨拶



茨城県土地改良  
事業団体連合会  
会長

葉 梨 衛

新年、あけましておめでとうございます。

令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、会員並びに関係団体の皆様には、平素から本会の運営並びに農業農村整備事業の推進に、格別のご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、度重なる豪雨災害が発生し、県内においても農地及び土地改良施設が甚大な被害を受けました。被災した会員の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、本会としても、早期復旧に向けた支援に鋭意取り組んでいるところでございます。

また、新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同等の取り扱いになり、社会経済活動が正常に戻りつつありますが、引き続き、基本的な感染症対策に心がけ、本県農業農村の振興に尽力して参りたいと考えております。

さて、ロシアによるウクライナ侵攻や中東における軍事衝突など、国際情勢は混沌とし、先行き不透明な状況であり、食料安全保障への懸念が高まっております。

国では、農政の基本方針となる「食料・農業・農村基本法」について、食料安全保障の抜本的な強化などを柱に位置付け、今年の通常国会において改正を目指し、審議をしている状況であります。

そのような中、令和6年度の国の農業農村整備予算としましては、当初予算として、4,463億円が概算決定され、さらに令和5年度補正予算として、食料安全保障強化対策の160億円、T P P等関連対策の760億円、防災・減災・国土強靱化対策の857億円が予算化され、計画的に事業が実施できる額、6,240億円が確保できたところであり、安堵したところであります。

これもひとえに、会員の皆様が、地元の切実な声を国へ届けていただいたお陰と感謝申し上げます。本年も引き続き、会員の皆様のお力添えをいただき、国や本県選出の国会議員の方々に対し、皆様の声を繋ぐとともに、農業を取り巻く情勢を踏まえ、関係機関と更なる連携を図りながら、担い手への農地の集積・集約化と生産コスト削減に向けた基盤整備や、農業水利施設の長寿命化、防災・減災対策を積極的に推進してまいり所存でございます。

さらには、様々な分野で男女平等の実現に向けた取組が進められ、土地改良の分野でも目標が掲げられているところであり、女性の活躍に向けた環境づくりを促進し、多様な人材の確保など、土地改良区の運営に対して支援して参りたいと考えております。

結びに、新年早々発生した、令和6年能登半島地震の被災者の方々へお見舞いと、亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、会員の皆様並びに関係機関の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げまして年頭の挨拶といたします。

## 新年のご挨拶



茨城県知事

大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

元日に発生した令和6年能登半島地震により、亡くなられた方のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

茨城県土地改良事業団体連合会並びに関係団体の皆様方には、日頃から、本県の農業・農村の振興に多大なご尽力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

昨年は観測史上最も暑い年と言われるなど、地球規模での異常気象に見舞われ、本県も度重なる記録的な豪雨により甚大な被害を受けました。被災された方々が、一日も早く日常の生活を取り戻し、安心して暮らせますよう、復旧・復興と防災力の強化に取り組むとともに、被災した農地・土地改良施設などの早期復旧を進めてまいります。

コロナ禍を乗り越え、社会経済活動が活性化したことは大変喜ばしいことですが、イスラエル・パレスチナ情勢をはじめとした、新たな分断と協調が進む世界情勢、「地球沸騰化時代」の到来など、新たな事象に次々と直面する中で、長引く物価高騰や最も重要な課題である急激な人口減少への対応が急務であり、私たちは今、将来を見通すことが困難な時代の転換点に立っております。

こうした時代の荒波を乗り越えていくためには、本県の生産性を向上させることが不可欠です。

このため、私は、農業者がしっかりと利益を上げられ、魅力ある産業として次の世代に確実に引き継ぐことができる、「儲かる農業」の実現が重要であると考え、農産物のトップブランド化や国内外の販路開拓など、農業者の所得向上にこだわった施策に取り組んでまいりました。

この結果、100ha超の大規模水田経営体の育成や、「恵水」や「イバラキング」の高級贈答品としての評価獲得、農産物輸出の過去最高額の更新など、多くの成果が現れてきております。

さらに、より中長期的な視点で本県農業の構造改革を進めるため、県では、昨年5月に「茨城農業の将来ビジョン」を策定し、各種施策に取り組んでいるところです。

特に、土地改良事業については、意欲ある担い手へ農地の集積・集約を図るとともに、地域が自ら考える「儲かる営農構想」に基づき、水田を「水田エリア」と「畑地化エリア」にゾーニングし、大規模経営体の育成や有機栽培米などの特色ある米づくりとともに、水田を畑としても利用可能にする汎用化などの取組を通じて高収益作物への転換や施設園芸団地の形成を推進してまいります。

また、農業の持続的な発展のためには、電気料金高騰に対応する農業水利施設の省エネルギー化に加え、頻発化・激甚化している自然災害に備えて農業・農村の強靱化やインフラの長寿命化を進めることが不可欠です。このため、先の補正予算で省エネルギー化に取り組む土地改良区の電気料を支援するとともに、老朽化が進む基幹的農業水利施設の補修・更新や防災重点農業用ため池の整備を計画的に進めてまいります。

皆様方におかれましても、本県農業の基盤を支える農業水利施設の整備や適切な維持管理などに、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様方のさらなるご活躍を期待するとともに、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことをお祈り申し上げまして、新年の挨拶といたします。

## 新年にあたって



全国土地改良  
事業団体連合会

会長

二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いします。

去年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第五次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます。私の新年の御挨拶といたします。

## 新年のご挨拶



財務大臣政務官  
参議院議員

進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。

本年は元旦から能登半島地震が発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りいたしますとともにご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地域の復旧、復興に向け、私も全力を尽くしてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

茨城県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願いいたします。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力（食料自給力）の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。

皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。

## 新年のご挨拶



全国水土里ネット  
会長会議顧問

参議院議員

宮崎 雅夫

本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」により尊い生命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被災され、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活基盤の回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧・復興に向け、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する自然災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等が発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に皆様とともに全力で対応してまいります。

さて、辰年を迎え、茨城県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの状況に即して、国政の場から全力で対応してまいりました。昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円（食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円）を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正予算と合わせた総額は6,240億円となっております。1月末から始まる通常国会において、参院予算委の理事として、早期成立に向け努力してまいります。

さらに、通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正される予定となっており、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を深め、改正基本法に位置付けていく必要があります。加えて、土地改良が担う重要な役割である農地や水利施設等の整備や保全・管理、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進、農業農村関係人口の拡大などを通じた土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります。決意ですので、本年も引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、茨城県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方の益々のご発展とご健勝を心より祈念申しあげ新年の挨拶とさせていただきます。

## 令和6年度農業農村整備事業関係予算概算決定の概要

### 令和6年度農業農村整備事業関係予算概算決定の概要

(単位：億円)

事 項	令和5年度 当初予算額	令和6年度 概算決定額 A	令和5年度 補正予算額 B	合 計 A + B
農業農村整備事業〈公共〉	3,323	3,326 (100.1%)	1,777	5,103 (153.6%)
農業農村整備関連事業〈非公共〉 〔 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業 農山漁村振興交付金 〕	543	548 (100.9%)	—	548 (100.9%)
農山漁村地域整備交付金〈公共〉 (農業農村整備分)	591	588 (99.6%)	—	588 (99.6%)
合 計	4,457	4,463 (100.1%)	1,777	6,240 (140.0%)

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。  
2. 下段( )書きは令和5年度当初予算額との比率である。

### 令和6年度農村振興局予算概算決定の概要(公共事業)

(単位：億円)

事 項	令和5年度 当初予算額	令和6年度 概算決定額 A	令和5年度 補正予算額 B	合 計 A + B
農業農村整備事業	3,323	3,326 (100.1%)	1,777	5,103 (153.6%)
〔 国営かんがい排水 国営農地再編整備 国営総合農地防災 直轄地すべり 水資源開発 農業競争力強化基盤整備 農村地域防災減災 中山間地域農業農村総合整備 農村整備 土地改良施設管理 その他 〕	1,038 403 281 7 85 635 411 49 72 213 127	1,033 396 269 7 85 680 381 45 69 231 130 (102.7%)	138 226 77 — 10 891 393 14 12 15 —	1,171 622 346 7 95 1,572 774 60 81 246 130 (102.7%)
農山漁村地域整備交付金	774	770 (99.5%)	—	770 (99.5%)
海岸事業	44	44 (100.0%)	11	56 (126.0%)
災害復旧等事業	85	86 (100.6%)	397	483 (567.0%)
合 計	4,226	4,226 (100.0%)	2,186	6,412 (151.7%)

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。  
2. 下段( )書きは令和5年度当初予算額との比率である。  
3. その他には後進地域開発特例法適用団体土地改良等関係開発指定事業補助率差額金を含む。  
4. 国営かんがい排水には土地改良施設突発事故復旧事業(直轄)を、  
農業競争力強化基盤整備には土地改良施設突発事故復旧事業(補助)を含む。

# 農業農村整備の集い及び要請活動



去る令和5年11月7日(火)に、東京都千代田区平河町のシェーンバッハ・サポーにおいて、全国土地改良事業団体連合会主催の「農業農村整備の集い」が、多数の国会議員を含む約1,100名の土地改良関係者が全国から参集して開催された。

開会にあたり、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問が挨拶を行い、続いて要請書を全国土地改良大会の令和6年度開催県である水土里ネット千葉の小島参事からの朗読があり、全会一致で採択された。また、宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問の情勢報告があり、休憩を挟んだ後、二階俊

博全土連会長から「今後、来年度予算に向けた各種調整が始まるが、農家の皆さん方の期待に応えられる予算の確保に一致団結して取り組む。また、男女共同参画の取り組みを本格化させ、目標達成に集中的に取り組むことをお願いしたい。『闘う土地改良』は限りなく続く、さらなる闘いを続けるようお願いしたい。」とあいさつが述べられた。

続いて、来賓の宮下一郎農林水産大臣をはじめ、高市早苗経済安全保障担当大臣、森山裕自民党総務会長、細田健一自民党農林部会長の方々から熱い応援の祝辞が述べられた。

また、集い終了後、本県においては、本県選出国会議員への要請活動を実施し、農業農村整備の集いで決議された要請文により要請活動を実施した。



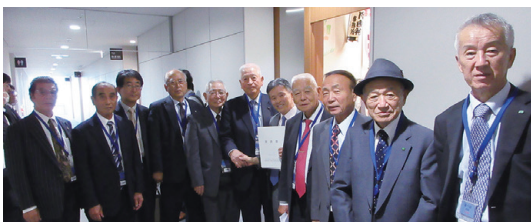
田所嘉徳衆議院議員への要請



永岡圭子衆議院議員への要請



加藤明良参議院議員への要請



上月良祐参議院議員への要請

## 要請書（抜粋）

全国的水土里ネットは、培ってきた経験と技術を活用し、「闘う土地改良」のスロガンの下、一致団結して、次の事項の実現を図ることを国に要請する。

記

- 一 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 食料・農業・農村基本法の見直しに当たっては、次の観点に留意して必要な規定を盛り込むとともに、関連する制度や事業・支援の一層の充実を図ること。
  - (一) 農業の競争力強化や、国産農産物の増産による輸入農産物からの置換え等を図っていくため、「農地の区画の拡大」や排水改良による「水田の汎用化」が引き続き重要であること。
  - (二) 農業用水を安定的に確保するため、「農業用排水施設の機能の維持増進」が引き続き重要であり、さらに、頻発する突発事故等を踏まえ、「農業生産の基盤の整備」に加えて、農業生産の基盤の保全管理が重要となっていること。
  - (三) 豪雨災害や大規模地震のリスクを踏まえ、農業・農村の防災・減災対策の強化が重要となっていること。
  - (四) 中山間地域等直接支払のみならず、基本法制定後に法定化された多面的機能支払が、農地・農業用水の維持等を図る上で重要な役割を果たしていること。
  - (五) 農業の生産基盤の整備及び保全管理に関する技術の開発及び普及が重要であること。
  - (六) 土地改良区は、食料生産に不可欠な農地・農業用水の整備及び維持管理という公共的役割を果たしており、食料安全保障の強化に向けて、運営体制の強化を図る必要があること。
- 三 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化など、事務手続の効率化等に向けた取組を推進すること。
- 四 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 五 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進するとともに、燃料価格や電力料金が高騰する状況下においても安定的な用水供給等が可能となるよう対策を推進すること。
- 六 ICT、AI等の先進技術を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進すること。
- 七 中小規模の土地改良区を対象とした合併など、土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 八 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担や責任が生じないように配慮すること。
- 九 水田活用の直接支払交付金の見直しに伴う水田の畑地化を進めるに当たっては、現場の実情を踏まえ、引き続き必要な措置を講ずること。
- 十 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

令和5年11月7日

全国土地改良事業団体連合会  
都道府県土地改良事業団体連合会



## 本会が実施した要請活動 (R5.10~R6.1)

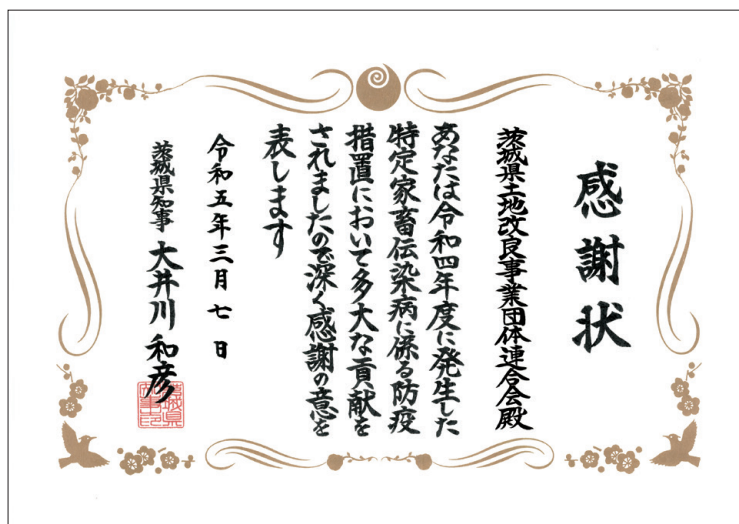
本会において、国に対し下記のとおり要請活動を実施した。(期間：令和5年10月～令和6年1月現在)

日時	要望先	会議名	要望内容
10月3日	関東農政局	関東一都九県土地改良事業団体連合会との農業農村整備事業推進に関する意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎農業農村整備事業の予算確保について（関東全都県共通）</li> <li>◎土地改良施設維持管理適正化事業の予算拡大について</li> <li>◎多面的機能支払交付金制度について</li> <li>◎土地改良区体制強化事業の継続及び制度拡充について</li> <li>◎土地改良区の運営に対する支援について</li> </ul>
11月8日	農林水産省 農村振興局整備部	令和5年度農業農村整備事業に関する意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎農業農村整備事業の予算確保について</li> <li>◎電気料金高騰に係る土地改良区への支援の継続</li> <li>◎土地改良区における再生可能エネルギー活用事例提供について</li> <li>◎土地改良区決済金等支援に係る情報共有について</li> </ul>
11月8日	県選出国會議員	茨城県農林水産業関係団体連絡会 県選出国會議員との懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎農業農村整備事業の予算確保について</li> <li>◎土地改良区の運営に対する支援の継続について</li> <li>◎土地改良区体制強化事業の制度拡充について</li> </ul>

## 鳥インフルエンザ防疫作業に本会職員が参加

県内各地で相次いで発生した鳥インフルエンザについて、県からの要請に伴い、本会においても現地での防疫作業に協力した。

令和4年度は5件（延べ人数48名参加）、令和6年1月現在では、1件（延べ人数7名参加）の作業に参加した。



県より贈られた感謝状（令和5年3月発行）

## 第45回全国土地改良大会が福井県越前市で開催

去る令和5年10月11日（水）、第45回全国土地改良大会福井大会が、「サンドーム福井」において、「水土里（みどり）がある、幸福（しあわせ）がある、笑顔がある～ふくいで語る土地改良の未来」をテーマに開催され、全国の土地改良関係者約4,000人が参加した。

はじめに、福井県土地改良事業団体連合会の山崎正昭会長による挨拶の後、全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長の代理として、義経賢二副会長より主催者挨拶があり、武村展英農林水産副大臣、福井県選出国会議員の稲田朋美衆議院議員、全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が祝辞を述べた。

土地改良事業功績者表彰の部では、土地改良事業に尽力した全国の功労者66名が表彰され、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰44名が受賞した。

本県からは、山口伸樹笠間市長が農林水産大臣表彰、池田芳範大野地区土地改良区理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した。

その後、青山農林水産省農村振興局次長による基調講演、土地改良区における男女共同参画の取組みについて、富山県南砺市土地改良区や福井県土地改良事業団体連合会より優良事例発表が行われた。

最後に、次期開催県の紹介があり、令和6年10月22日に千葉県（幕張メッセ）において開催されることが発表され、福井県より千葉県に大会旗の引き継ぎが行われた。



山口伸樹笠間市長  
（本会理事）



池田芳範大野地区  
土地改良区理事長  
（本会理事）

大会テーマは「ふさの国から飛び立て水土里の恵み 力強く未来に繋ごう水土里の礎」であることが発表され、次期千葉大会の成功を祈念して、大会は盛会裡に終了した。



サンドーム福井前にて

## 全国水土里ネット女性の会研修会に参加

去る11月8日（水）、東京都千代田区「ビジョンセンター永田町」において、全国水土里ネット女性の会研修会が開催され、全国から関係者115名が参加した。

研修会では、以下の2つのテーマについて講義が行われた。

・「アンコンシャスバイアスについて」

講師：（一社）アンコンシャスバイアス研究所 一ノ瀬史子

・「男女共同参画における『伝えることの大切さ』」

講師：ドキュメンタリー映画監督 柴田昌平

その後のグループワークでは、それぞれが抱えるアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）について、課題とその解決策に向けてディスカッションが行われた。



グループワークの様子

## 疏水フォーラム in 常西用水2023に参加

去る10月30日（月）富山県富山市「富山国際会議場」において、疏水フォーラムin常西用水2023が開催され、全国から約740人の関係者が参集した。

なお、フォーラムでは下表のとおり、講演やパネルディスカッションが行われた。

タイトル	氏名	内容
基調講演	農林水産省農村振興局整備部水資源課長 瀧川 拓哉 氏	疏水をめぐる課題と対応
講演	水土里ネット天狗岩 事務局長 磯田 靖 氏	都市化が進む地域における農業用水の維持管理について
活動報告	水土里ネット常西用水 事務局長 水谷 英二 氏	活動報告
パネルディスカッション	コーディネーター： 上智大学グローバル教育センター教授 杉浦未希子 氏	都市地域の疏水の保安全管理を考える
	パネラー： 水土里ネット常西用水 理事長 中川 忠昭 氏	
	水土里ネット天狗岩 事務局長 磯田 靖 氏	
	水土里ネット鹿妻 理事長 高橋 隆 氏	
	農林水産省農村振興局整備部水資源課長 瀧川 拓哉 氏	

また、10月31日（火）に開催された現地研修には、県内外から135名が参加し、横江頭首工や常西合口幹線水路などの土地改良施設を回った。



主催者挨拶：疏水ネットワーク会長 中川 忠昭



会場の様子

## 令和5年度上半期監査及び第3回監事会を開催

去る10月17日（火）水戸市「茨城県土地改良事業団体連合会会議室」において、雨谷総括監事、岡田監事の出席のもと、本会の令和5年度上半期監査を開催した。

なお、監査は下記のとおり行われた。

### 【監査事項】

1. 令和5年度事業の実施状況について
2. 令和5年度収入支出予算の執行状況について
3. 令和5年度財産目録(上半期)の状況について



監査の様子

監査では、雨谷総括監事から「令和5年度の『事業執行状況』、及び『一般会計及び農家負担金軽減支援対策事業特別会計の収入支出執行状況』につきまして監査を執行しましたところ、その状況については良好と認められました。土地改良事業発展のため、また、我々会員へのサービス向上のために、職員一丸となって、なお一層の努力をお願い申し上げます。」との監査結果報告があった。

また、同日に併せて第3回監事会を開催した。

## 令和5年度土地改良区体制強化事業 統合整備推進研修(基礎研修)を開催

去る11月27日（月）、水戸市「ザ・ヒロサワ・シティ会館」において、令和5年度土地改良区体制強化事業統合整備推進研修（基礎研修）を開催し、県内及び県外（東日本ブロック）の土地改良区役職員、市町村担当者等、合計233名が出席した。

当研修会は、土地改良区体制強化事業実施要綱に基づき、土地改良区の業務運営を円滑に推進するために開催されたものであり、土地改良区の統合再編をはじめ事業運営の透明化等の推進による組織運営基盤の強化と事業実施体制の強化を図り、土地改良区の統合整備推進につながる有意義な研修会となった。



会場の様子

研 修 項 目	講 師
①土地改良区の統合整備の推進について	全土連支援部長 市村 和寿
②土地改良区の合併推進に資する滞納処分について	全土連支援部参与 飯田 博隆
③合併推進に係る諸問題・懸案事項への対応	農林水産省土地改良企画課係長 鈴木 健太
④土地改良区の合併事例発表	茨城県土連本所総務部総務経理課長 長洲 裕之
⑤所有者不明土地の解消について	茨城県土連県北事業所換地課嘱託 監物 淳二

## 令和5年度管理職研修会を実施

去る12月19日（火）水戸市「茨城県土地改良事業団体連合会会議室」において、令和5年度管理職研修会が開催され、本会の各事業所職員を含めた管理職13名が出席した。

はじめに、根本専務理事から挨拶があり、その後、外部講師として招いた社会保険労務士の石井光一氏から「ハラスメント研修会」として、管理職としてのハラスメントに対する意識や向き合い方について、参考動画を視聴し、この場合にはどのように対応すれば良かったかなど、対話を交えつつ講義をしていただいた。

また、講師からは「ハラスメントについては、もちろん管理職だけでなく、全ての職員が意識する必要がある、まずは『会としてハラスメント行為は絶対に許さない』ということ、内部で周知徹底していくことが大切です。」とアドバイスを頂いた。



石井光一社会保険労務士



研修会の様子

## 農業基盤整備資金の金利改定

（株）日本政策金融公庫（旧農林漁業金融公庫）が貸し出す農業基盤整備資金の貸付金利が、令和6年1月18日以降下記のとおり改定された。

記

（単位：％）

区 分	利率一覧（令和6年1月18日現在）				
	融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）			
		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	1.15	-	-	-	-
団体営補助残	1.00	-	-	-	-
非補助一般	1.00	-	-	-	-
非補助利子軽減	1.00	-	-	-	-
災害復旧	-	0.60	0.60	0.85	1.00

## 茨城県土連各管内連絡協議会による視察研修を実施

茨城県土地改良事業団体連合会の各管内連絡協議会において、下記のとおり視察研修を実施した。  
(当視察研修は、本会独自で例年実施しているものである。)

### ●県西事業所筑西管内・境管内連絡協議会（合同開催）

実施日	視察先（滋賀県・岐阜県・愛知県方面）	参加人数
10月24日～ 10月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○尻無北部土地改良区（滋賀県東近江市） ・「ほ場の大区画化」</li> <li>○岐阜県スマート農業推進センター（岐阜県海津市） ・「スマート農業」</li> <li>○入鹿用水土地改良区（愛知県犬山市） ・「入鹿池、愛知用水事業」</li> </ul>	29名

### ●県北事業所水戸管内連絡協議会

実施日	視察先（石川県・福井県方面）	参加人数
10月31日～ 11月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界農業遺産 能登の里山里海 白米千枚田（石川県輪島市）</li> <li>○九頭竜川鳴鹿土地改良区（福井県坂井市） ・「土地改良区の概要について」 ・「国営九頭竜川下流域農業用水パイプライン事業について」</li> </ul>	22名

### ●県北事業所常陸太田管内連絡協議会

実施日	視察先（静岡県方面）	参加人数
11月9日～ 11月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大井川土地改良区（静岡県島田市） ・「土地改良区の概要について」 ・「水力発電所の施設管理と運営について」</li> </ul>	16名

### ●県南事業所土浦管内連絡協議会

実施日	視察先（宮城県方面）	参加人数
11月14日～ 11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仙台東土地改良区（宮城県仙台市） ・「土地改良区の概要について」 ・「水管理システム『中央管理所』について」</li> <li>○仙台市内排水機場（現地視察）</li> </ul>	18名

### ●県南事業所稲敷管内連絡協議会

実施日	視察先（新潟県方面）	参加人数
11月21日～ 11月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○西蒲原土地改良区（新潟県新潟市） ・「土地改良区の概要について」 ・「西蒲原土地改良区管内ほ場整備」（現地視察）</li> </ul>	16名

## 令和5年度多面的機能支払交付金優良活動事例発表・研修会を実施

去る12月21日（木）水戸市「ザ・ヒロサワ・シティ会館」において、茨城県ふるさと多面的機能推進協議会主催による優良活動事例発表会、機械の安全使用に関する研修会、機能診断・補修技術に関する研修会が、活動組織、土地改良区職員、県職員、市町村職員等の約900名を参集し開催された。

はじめに協議会会長の筑西市横田実経済部長による主催者挨拶に続き、宮崎雅夫参議院議員に祝辞をいただいた。その後、下記のとおり発表会及び研修会が行われた。

内 容	講 師
優良活動事例発表会 「美しい田園空間を守る地域ぐるみの資源保全活動」	第14回茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰 茨城県知事賞受賞 「菅生遊水みどりの会農地・水・環境保全管理協定運営委員会」 (守谷市・常総市) 会計 中澤まり子
機械の安全使用に関する研修会 「地域資源を守る知識を学ぼう －機械（刈払機）の安全使用－」	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 主任研究員 皆川 啓子
機能診断・補修技術に関する研修会 「コンクリート開水路の変状と簡易補修」	農林水産省関東農政局土地改良技術事務所 保全技術課長 中嶋 敏勝

参集した活動組織の方々からは、事例発表の活動内容、共同活動の安全、施設の診断・補修技術について今後の参考にしたいとの声が多数あった。



宮崎雅夫参議院議員による祝辞



菅生遊水みどりの会 会計 中澤まり子



農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員 皆川 啓子



関東農政局土技所 保全技術課長 中嶋 敏勝

# 金属製バルブ 土地改良施設 **が狙われているかも？！**

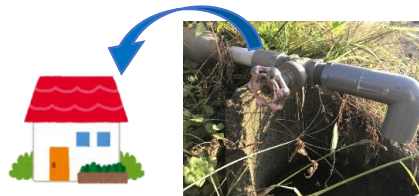
## 盗難に注意！！

茨城県内では、令和4年度に**35件、1,967万円**の盗難被害が発生。  
今年度※も既に**30件、1,543万円**と被害が多発しています。

※令和5年12月末現在

### 効果的な対策

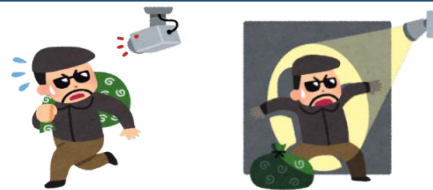
非かんがい期は  
給水用蛇口を外して自宅保管



プラスチック製の蛇口を導入



防犯カメラやライトの導入



「防犯カメラ作動中」、  
「盗難対策実施中」  
の看板やステッカー等を設置



- ・盗難が発生した場合は警察に被害届を提出し、土地改良区等に報告しましょう。
- ・土地改良区等は県へ報告するとともに、組合員等への注意喚起をお願いします。
- ・万が一に備えて、保険の加入を検討しましょう。